

「名門復活」と「向上進取の精神と高い志の涵養」を目指し、全教職員による組織的取組を推進してきた、今年度の結果である。今年度の結果を検証し、改善を加え、次年度へ反映させ、学校全体で取り組んでいく。

赤字は昨年度比で上昇した数値を示す。

27年度の数値目標		27年度成果	26年度 ←	25年度 ←	24年度	
①	国公立大現役合格者数	5名以上	4	1名 ←	4名 ←	0名
②	難関私立大(早慶上理)現役合格者数	5名以上	6	4名 ←	1名 ←	0名
③	上位私立大(GMARCH等)現役合格者数	40名以上	54	41名 ←	41名 ←	5名
④	日東駒専現役合格者数	50名以上	93	54名 ←	36名 ←	36名
⑤	センター試験受験者数	120名以上	167	129名 ←	104名 ←	118名
⑥	平日の家庭での予習・復習時間 1年生の平均	90分以上	65	65分 ←	37分 ←	35分
⑦	平日の家庭での予習・復習時間 2年生の平均	120分以上	65	60分 ←	35分 ←	調査未実施

(1) 教育活動の目標と方策に関する評価 ※内部評価はA 満足 B 概ね満足 C 不満足 の3段階

項目	内部評価	成果と課題	改善策
学習指導 進路指導	1	<p>成果 学力スタンダードについては推進校としての取組の学校全体としての取組の推進や、教科内における授業内容の不均衡も解消する等、生徒の学力の向上に関して成果があった。</p> <p>課題 国公立大学等に対応した組織的取組がまだまだ不十分である。</p>	<p>学力スタンダード推進校として培ったノウハウを生かしつつ、国公立大学や難関私立大学に対応していくために、教科主任会を中心として、成果検証をしっかりと行わせ、改善につなげ、結果を出していく。</p>
	2	<p>成果 進学指導という環境づくりはできた。徐々にはあるが、風土としても根付きつつある。</p> <p>課題 実施時期や回数も含め、進路指導部主導による、より一層の情報共有及び情報交換の場の設定。</p>	<p>年間行事計画に最初から位置づけ、学校全体の取組であることを意識させるとともに進路指導部主導による資料作成方法の提示及び精査を推進していく。</p>
	3	<p>成果 学習オリエンテーションを年3回以上実施。大学合格者先輩企画を実施。</p> <p>課題 自学自習習慣の確立。</p>	<p>早期における目標設定の働きかけの強化。進路指導部、学年の連携によるキャリア教育の推進。</p>
	4	<p>成果 課題等、家庭学習時間を増やす工夫や取組による成果は出ている。</p> <p>課題 課題等の難易度や教科の不均衡。</p>	<p>教科主任会及び教科会による分について検討する場の設置。課題内容に対する報告会の実施。</p>
	5	<p>成果 長期休業日中においては組織的に学校全体で取り組んだ。</p> <p>課題 個別補習体制の確立。</p>	<p>個人によらない、教科主導の放課後や土曜日等における講習の組織化による推進。</p>
	6	<p>成果 読書活動拠点校として、生徒の言語能力の向上を図るため様々な取組を学校全体として行うとともに各種検定取得を働きかける等、成果を上げた。</p>	<p>今後も、形骸化させることなく、取組の検証と工夫・改善を行っていく。</p>
	7	<p>成果 地域と密接に連携する等、キャリア教育の推進に努めた。</p> <p>課題 高い志の育成。</p>	<p>国公立大学の有用性を説く等、これまで行ってきたキャリア教育の内容の検証と精査。</p>

生活指導	1	頭髪の染色、化粧やピアス等をさせない指導、時間遵守の指導、挨拶の励行を徹底し、基本的生活習慣を確立する。	A	学校全体として組織的な指導の徹底を図った。地域の評判も向上した。	今後も、緩めることなく、生徒指導の徹底を図っていく。
	2	授業規律をはじめとした学校生活のルール・マナーを遵守させるための、生活指導を全校体制で行う。	A	昨年度に続き、生活指導便りの配布等、規範意識の育成のため工夫を凝らした取組を実施、生徒の意識の涵養に繋がっている。	地域と連携を図りながら、今後も規範意識の育成を推進していく。
	3	いじめや体罰は絶対にさせない見過ごさない校内体制を構築、生徒や保護者が安心、安全な学校生活を保障する。	A	成果 学校として最重要課題として全教職員で取り組んだ。安心・安全な学校生活を送るための体制を構築した。	今後も、緩めることなく、全教職員体制であたっていく。
特別活動 部活動	1	部活動を奨励し、1年生において全員が部活動に所属し積極的に活動する指導体制を構築する。	B	成果 3月現在の部活動加入率 1年 98% 2年 76%	1年生、全員、部活動加入は定着してきた。今後は2年生における定着率の向上が課題である。
	2	学校行事や委員会活動を充実させ、社会性や帰属意識の育成を図るとともに学校内外に貢献する姿勢を醸成する。	A	地域への貢献、連携を軸に府中高校ならではの学校行事や委員会活動の充実を図ってきた。	今後も地域への貢献、連携を継続していく。
防災教育 安全教育	1	災害から自らの命を守るために必要な「自助」の能力を身に付けさせ、社会貢献など「共助」の精神を育成する。	A	工夫を凝らしながら、適切に実施できた。	次年度以降も取組の充実を図っていく。
	2	学校安全計画年間指導計画に基づき、登下校時の交通安全と災害等に対応した安全指導を推進	A	生活指導部を中心として学校全体体制で指導を推進することができた。	次年度以降も取組の充実を図っていく。
体力向上 健康増進	1	体育授業、部活動、学校行事等あらゆる機会を捉えて体力及び運動能力の向上を全校で取り組む。	A	工夫を凝らしながら、各種取組を推進した。	次年度以降も取組の充実を図っていく。
	2	東京都体力テストの結果を踏まえ、普段運動をする習慣のない生徒に、効率的に運動量を確保する取組を推進する。	A	工夫を凝らしながら、各種取組を推進した。	次年度以降も取組の充実を図っていく。
	3	歯・口の健康づくり研修会など、健康づくりを推進するため、口腔衛生に関する指導を重点的に継続して取り組む。	A	・予定通り実施。	次年度以降も適切に実施していく。
募集広報	1	ホームページの学校紹介分野を充実させる。学校から地域・保護者等への最新の情報発信に努める	A	経営企画室を中心として、時機を逸しないHPの更新に努めた。	次年度以降も取組の充実を図っていく。
	2	本校を第一志望校として目指してもらえるよう、部活動等の広報や、中学校との連携事業を推進。	A	応募倍率、約1.7倍。	引き続き、工夫を凝らしながら広報活動を推進していく。
学校経営 組織体制	1	教科主任を設置し、教科内の教育活動の組織化、効率化を図る。	A	教科主任としての意識改革を推進、各種取組を組織的に実施した。	次年度以降も取組の充実を図っていく。
	2	各種会議や委員会を定期的に行い、課題解決を図る。	B	工夫を凝らしながら、各種取組を推進した。	次年度以降も取組の充実を図っていく。
	3	教師、生徒における暴力行為や暴言、すべての体罰の根絶を図る。	A	学校として最重要課題として全教職員で取り組んだ。	次年度以降も適切に実施していく。
	4	スクールカウンセラーとの連絡会を随時実施し、問題の共有化による課題解決を図る。	B	保健環境部を中心として学校全体体制で指導を推進することができた。	次年度以降も適切に実施していく。
	5	家庭、地域と連携し、相互協力のもと健全育成を図る。	A	各取組を通して健全育成を推進した。	次年度以降も取組の充実を図っていく。
	6	経営企画室の業務進行管理を機能的に行い、都民の信頼に応える。	A	工夫を凝らしながら、適切に実施できた。	次年度以降も適切に実施していく。

(2) 重点目標と方策 ※内部評価は A 満足 B 概ね満足 C 不満足 の 3 段階

項目	内部評価	成果や課題	改善策
①	A	国公立大4名、難関私立大(早慶上理)6名、上位私立(GMARCH)合格者数54名、日東駒専合格者数93名、センター試験受験120人、大学進学率60%以上を目指す。	引き続き、全教職による進学指導を確立していく。
②	B	各学年によるケース会議、3回実施。	より一層の組織的取組へ改善。
③	A	組織目標策定、中間総括実施。次年度へ改善策の反映。	より、国公立大学や難関私立大学へシフトさせていく。
④	A	教科主任会の活用による、組織的取組の推進。長期休業日中における組織的講習・補習体制の実施。学力スタンダード推進校としてのノウハウを生かした授業体制の構築。個別指導体制の充実による生徒の進路実現率の向上。	引き続き、全教職による進学指導を確立していく。
⑤	B	家庭学習時間調査を実施。週末課題等、各教科の工夫による生徒の学習時間の確保。先輩企画等を通じた自学自習習慣の育成。	学習オリエンテーションの充実。高い志の育成を推進する取組。
⑥	A	84講座。述べ人数約3400名以上	より国公立や難関私立大を意識した講習体制の確立。
⑦	B	読書活動拠点校としての工夫ある取組の推進	形骸化させることなく、引き続き、検証・改善を行っていく。
⑧	A	全教職員体制による生活指導の徹底。学校行事や地域と連携した規範意識の育成等、工夫ある各種取組の推進による健全なる精神の涵養。	地域との連携を深め、校内体制を確固たるものとし、決して形骸化させない組織づくりをしていく。
⑨	A	前年度比較遅刻者数18%以下	引き続き、全教職員体制で指導の徹底を図っていく。
⑩	A	交通事故等は0件、自転車マナーに対する苦情も0件であった。	自転車マナー等、交通安全教育の徹底と充実を図っていく。
⑪	B	スクールカウンセラーとの連絡を深め、教育活動へ反映させるとともに学校全体として各種取組を推進した。	引き続き、生徒の実態把握に努めるとともに、教育相談体制の充実を図り、時機を逸しない早期の対応を行っていく。
⑫	B	年間を通じ、授業や体育的行事、及び部活動等において、生徒の体力向上を図ってきた。	マラソン大会の導入等、さらなる体力向上を目指した新たな行事等の検討、実施。

⑬	生徒部活動加入率100%以上とし、関東大会、都大会への出場や、高文連のコンクール等への出場を実現する。また、第2学年においては「よさこい in 府中」への参加を通し、地域貢献の心と集団や社会の一員として、自主的、実践的な態度を育てる。	B	部活動加入率は目標に近づいているが、関東大会や都大会への出場の機会は残念ながらない。よさこい in 府中への参加は地域からの評判も良く、生徒の育成に対して大きな成果を上げることができた。	部活動の活性化及び地域貢献のさらなる充実を図っていく。
⑭	生徒会活動、とりわけ委員会活動の活性化を図り、各委員会による校内学習環境改善を図る。特に、地域清掃は年間2回以上行い、集団における望ましい行動ができるよう指導する。	B	生徒会活動はあまり活発とは言えないものの、校内美化等、各委員会活動は積極的に取組を推進しており、集団的行動における社会的素養を育成することができた。	生徒会活動を活性化するために、生徒会の在り方や取組等を精査、見直しを進め、検討していく。
⑮	年間防災教育活動計画に基づき、宿泊防災訓練を含め計4回の防災避難訓練を実施する。被災後の共助について、地域と連携した指導、訓練を行い、主体的行動力を身に付けさせるとともにリーダーの育成を図る。	A	地域と連携を強化しながら、適切に実施することができた。今後とも充実を図っていく。	取組としては定着しており、形骸化しないよう、取組の充実とリーダーの育成を推進していく。
⑯	全校体制で各種学校説明会に対応する（参加中学生数1800名以上）。	A	説明会等の参加者、2600名以上を達成。	引き続き全校体制で工夫を凝らし、充実を図っていく。
⑰	体育祭・合唱祭での参観保護者数、文化祭での一般来場者数を合計3000名以上とする。	A	体育祭、文化祭、合唱祭の参加者、4100名以上達成	引き続き全校体制で工夫を凝らし、充実を図っていく。
⑱	校内美化を常に心がけ、毎日の清掃活動の他、各学期2回以上の大掃除を全校体制で実施し、衛生的な学習環境を整える。	A	委員会活動の中で、最も活発に活動しており、校内美化や学習環境の整備に大きく貢献した。	引き続き全校体制で工夫を凝らし、充実を図っていく。
⑲	家庭と学校の連携を充実するため、保護者会の適時開催及び内容の充実、保護者出席数の増大を図る。また、学年通信等、各種配布物について、極力ホームページに随時公開し、家庭と学校での情報の共有化を図る。	B	昨年度より、保護者会の出席は増加しているが、まだ十分とは言えない状況にある。配布物やHPの更新等は学校情報を伝えていくうえで大きく貢献した。	保護者との結びつきを、より強固にしていくため、各学年団の取組やHPの時機を逸さない更新等、工夫と充実を図っていく。
⑳	各種事務処理プランを活用し、経営企画室の業務進行管理を一層強固なものにする。	B	学校運営を推進していくうえで、業務進行管理等を適切に行った。	HPの更新等、より学校経営に対する積極的参画の推進。
㉑	いじめや体罰、暴力行為の根絶のため、校内服事故防止研修会を年間3回以上実施する。	A	最重要課題として研修会等の徹底を図った。	引き続き全校体制で工夫を凝らし、充実を図っていく。
㉒	個人情報の徹底管理を図るため、毎月クリーンデスクの日を定め、机上整理を確実に行う。	A	最重要課題として研修会等の徹底を図った。	引き続き全校体制で工夫を凝らし、充実を図っていく。
㉓	生徒が安心して学業に専念できる学習環境を整備するため、校舎の改築を目指し、校舎改築の実現に向けた校内プランを検討する。	B	改築のラインには乗ったようであるが、周辺環境等、実現していくうえで課題は多い。	都教育委員会と協議しながら、今後の府中高校の最善の在り方を見据え、検討を重ねていく。